

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

AGU News



AGUニュース第67号 [2013年6月~7月号]

2013

No. 67 青山学院大学

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
URL: <http://www.aoyama.ac.jp>

特集

学長が語る青山学院大学のこれから

新しい就学スタイルがスタート さらなる学びと探究の拠点に

TOPICS グローバル人材の育成を目指す新カリキュラム
(経営学部・理工学部)
理工学部 松川宏教授が「摩擦の新しい法則」を発見

誌上公開講座 Aogaku Lecture ⑩
囲碁で養うロジカルシンキング

INFORMATION 2013年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介
2012年度 学生表彰
2012年度 体育会優秀団体・選手表彰
2013年度 ペアレンツウィークエンドのお知らせ
「青山学院 エバーグリーン募金」へのご協力をお願い



青山キャンパス



特集 学長が語る青山学院大学のこれから

新しい就学スタイルがスタート さらなる学びと探究の拠点に



学長
仙波 憲一

**3.11によって延期を余儀なくされた就学
キャンパスの再配置が、この春、スタートしまし
た。本来あるべき学びのかたちが実現した
今、何が変わり、次にどんな青学の姿を期
待するのか、仙波学長に聞きました。**

**4年間一貫教育で、
本来の“大学らしさ”が帰ってきた**

就学キャンパスの再配置が予定より一年延期されたことは、やむを得ない状況であったとはいえ、期待されていた学生や保護者の皆さんに大変申し訳なかったと思っています。これについては教職員は誠実に応えるべく、経済的な面も含めて説明会を開くなどの対応を誠意をもって行ってきました。そして2013年4月より、念願の4年間一貫教育がスタートしたわけですが、率直に「活気にあふれているな」と感じました。雑

然として賑やかで、キャンパス内に大勢の学生がいる。これまで人文・社会科学系の1、2年生は相模原キャンパスでしたから、青山キャンパスでは今のような雑然と賑やかな光景は見られませんでした。今回の再配置によって、まるで私が本学の学生だった頃と同じような雰囲気が感じられ、素直に嬉しく思いました。

就学キャンパス移行の延期により、準備期間が当初より延び、青山キャンパス再開発の建物工事にも十分な時間を取ることができました。おかげさまで、しっかりと体制を整えて2013年度を迎えることができました。

実際にスタートしてみると、心配していたほどの大きな混乱はあまり感じられません。シミュレーションも重ねてきましたが、私たちがいちばん危惧していたのは、青山キャン

パスの通学路、特に朝の混雑状況です。他にも、教室が学生であふれて授業にならない、キャンパス内の動線の確保、食堂の混雑など、数多くの心配事項がありました。もちろん、それらの点でさらに改善が必要な部分はまだまだ多くありますので、今後も引き続きキャンパス環境の改善に全力で努めていきますが、まずまずのスタートを切ることができたのではないのでしょうか。警備員の配備の増強や昼休みを10分延長するなどの工夫を行いました。何を置いても教職員のご協力が陰に陽にあるとつくづく思います。というのも、1限目からの授業設定を先生方が積極的に受け入れてくださり、学生たちもそれに応えて、1限目の授業に大勢出席しています。朝から夜までキャンパスに学生がいるという状況は、本当にいい。大学生だけで

なく、そこに幼・小・中・高・短大の児童、生徒、学生、そして社会人もいる、年代や国籍を問わず、学生たちであふれるこの青山キャンパスを、社会とキャンパスがつながった「都市型キャンパス」として朝から夜までも活気づくものにしたい。青山だからこそ、それが可能であると思っています。

**青山が「都市型キャンパス」なら
相模原は「社会に開かれたキャンパス」**

同一キャンパスでの4年間一貫教育になったことによる変化もあちこちに見えてきました。多年次で履修できる本学独自の教養教育「青山スタンダード」科目は、学年を問わず履修する学生が増加しています。入学したばかりの頃はすぐに専門科目を学びたがり、年次が上がってから「やっぱり青山スタンダードのように幅広い学びが必要だ」と気づくことがあると思います。「青山スタンダード」は1年から4年を通じて、できれば高学年でより学んでほしい教養科目であるだけに、少し驚きの、喜ばしい効果だといえます。

また、部活動や履修科目の関係からか、思った以上に学生が青山と相模原を行き来しているようです。どういう理由で、どういうサイクルで行動しているのか、これから実態

を調べて、両キャンパスの往来システムを考えていきたいと思います。

理工学部と社会情報学部の学生が学ぶ相模原キャンパスは、もう少し学生の姿が見られるようにしたいと思います。そのためには、当然ながら新学部を構想することも考えていかなければなりません。学生の数が減った分、キャンパス内の施設には余裕ができましたので、これまで以上にキャンパスを有効に使えるようにしていきたいと考えています。

相模原キャンパスには、最先端の研究設備のほか、スタジアムをはじめとする運動施設、防音のピアノ室、茶室など充実の施設設備が整っています。ですから、まずはこれらを有効に利用して地域に開かれたキャンパスにしたい。もちろん、セキュリティの問題はありますが、とにかく国内外を問わず企業や教育機関と連携してキャンパスを活用したり、地域住民の方に利用してもらい、そんなふうには門戸を開かなければなりません。青山を「都市型キャンパス」と位置づけるなら、相模原は「社会に開かれたキャンパス」という位置づけで、大きく幅を広げたものになりたいのです。そのキーとなるのが、「情報と技術とスポーツ」だと私は確信しています。

**バランスのとれた学びで
真のグローバル化を目指す**

時代が急速に進み、あらゆる分野でグローバル化が叫ばれています。本学はアメリカのキリスト教宣教師が設立した学校です。日本にとどまらないというグローバルな考え方がもともとのベースにありますが、今はもう一歩進めて、時代に合ったグローバル化に対応していくことが必要です。語学と専門科目を座学とフィールドワークでバランスよく学ぶことが大事ですが、互いの違いを理解し、どの地域に行っても積極的に他者と交わり、理解しあえる人材を育成することが、真のグローバル化であると考えます。それぞれの学部の専門性や、学生個人の将来に合わせたバランスのとれた学びで、一人ひとりが自分を見定めたグローバル化への道を見つけていくことが大切ではないでしょうか。

だからこそ、本学が考えるグローバルな視点で着々と実質化して、さらに新しい方向性を見出し、いかに進んでいかなければなりません。新たな就学スタイルは今始まったばかりです。これからも積極的に学びの環境を改善していき、それにより学生がどう変わっていくのか、とても楽しみにしています。

グローバル人材の育成を目指す新カリキュラム

青山学院大学では、2013年度より、グローバル人材の育成を目指すカリキュラムの改革を始めました。経営学部と理工学部が、いずれも世界を視野に入れて活躍する人材を育てるために生み出したカリキュラムです。これからの時代に必須のグローバルな視点と行動力はもちろん、特に英語力の強化を意識した新しいカリキュラムで、学生一人ひとりを磨き上げます。

経営学部

世界を視野に入れたビジネス教育で次代に対応

経営学部では、これからの時代に求められる「主体的に考える力を育成する大学教育」を目指して、他大学と共に授業改善の研究会を重ねてきました。日本の大学生の特徴のひとつには、入学時に専門科目への学習意欲がとて高いということが上げられます。これを維持するためには入学直後の動機づけ教育が重要だと捉え、研究会では、学生が自ら問題を発見し解決していくアクティブラーニング型の実験的授業を展開してきました。その結果、授業に対する学生たちの意欲が大きく高まったことはすでに実証済みです。

その一方で、これまで学年で就学キャンパスが異なっていたことから、大学の先輩・後輩、学部生と大学院生間との交流が希薄になりがちでした。しかし、2013年4月、就学キャンパスが再配置されたことにより、経営学部の4年間と大学院経営学研究科の5年間、合計9年間を同じキャンパスで過ごすことになりました。これを機に、学年を超えた学生と教員の交流をとおして「青山学院大学の経営学部らしさ」を身につけた人材の育成と、次代に対応したビジネス教育を目指したカリキュラム改革を行いました。

将来、日本を、世界をリードするビジネスに携わりたい。そんな志を持つ学生たちに、世界を実感できる新しい学びを展開します。授業はますます厳しいものとなるでしょう。しかし、自立的で主体的な学習時間を確保し、自力でやり抜くことによって、世界に羽ばたく実力をしっかりと身につけてほしいと願っています。

経営専門教育における新カリキュラムの特徴

- 経営学部らしさの伝承プログラム
(SBSL: School of Business Student Leaders)
- 1年次前期: アクティブラーニング型初年次専門授業
- 2年次: 入門専門演習
- 3・4年次: アクティブラーニング型専門授業
- 学部入学後5年間で修士の学位取得
- グローバルビジネス教育の充実
- 1クラス16名程度による英語必修科目
- 英語による専門授業の充実
- 交換留学をしても4年間で卒業しやすい科目配置への変更

理工学部

理工分野ならではの英語コミュニケーション能力・実践力を養成

科学技術の成果は英語での発表が主流であり、英語論文の執筆や国際学会での英語プレゼンテーションは避けては通れません。大学院ではもちろんですが、学部段階においても英語の論文を理解し、英語で自分の成果を発信できる能力が必要とされています。

これまでも理工学部では「英語読解」「英作文」などの技能別科目を設置していましたが、学科ごとに必修科目や必要単位数、履修年次が異なっていました。

そこで、今回のカリキュラム改革においては習熟度別のカリキュラムを全学科統一で編成し、理工学部の学生が身につけるべき英語コミュニケーション能力のスタンダードを定めました。

1・2年次は全学必修が必修で学ぶ週2回の「English Core」を開講。「読む、書く、聞く、話す」という4技能を一体的に学ぶことで、バランスよく英語力を高めるとともに、1年次から2年次へと段階的に学ぶことで、学生の学習意欲の向上につなげます。

3年次からは、5種類10科目の選択科目を用意し、1・2年次で身につけた基礎力を基盤に、必要に応じた能力が伸ばせるようにしています。

英語教育におけるカリキュラム改革 (2013年度入学生より適用)

1・2年次	全学科生 必修
週2回の必修授業「English Core」で基礎力、強化!	
英語4技能「読む・書く・聞く・話す」を一体的にとらえ、前期は「読む・書く＝文章」、「聞く・話す＝口頭」に、後期は「話す・書く＝output」、「読む・聞く＝input」に重点を置き、実践的に学びます。クラス編成は多段階の習熟度別。個々の能力に応じた指導により、一人ひとりの実力を確実に高めていきます。	

3・4年次	選択必修5種類10科目
さらに専門能力を伸ばす多彩な英語科目を新設。	
●Public Speaking A・B 国際学会での発表を想定したプレゼンテーション技法を身につける。	
●Advanced Skills A・B 論文の書き方、ディベートといった英語によるアカデミックスキルを養う。	
●English Comprehension A・B 英語の理解力を総合的に伸ばすテーマ別授業。	
●English for Engineers A・B 理工学分野に特化した英語を学び、企業や先端技術の動向に関する知識を身につける。	
異文化のなかで“理工”を学ぶ体験も。	
●Study Abroad A・B 学部独自の短期海外語学研修。1年次から参加可能で一定の条件を満たせば単位認定(1年次参加者は2年次に単位認定がうけられます)。	

2014年度より、さらに2つのプログラムの新設を予定

～国際的に活躍できる理工系人材・高い実践力を備えた理工系人材の育成を目指します～

理工学国際プログラム

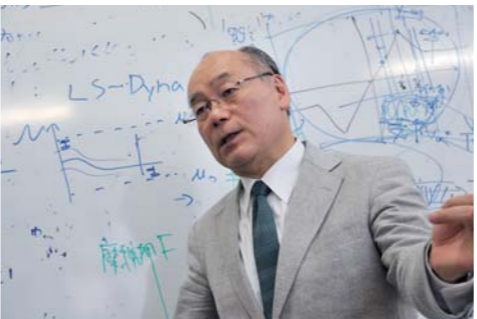
英語による専門科目の講義を開講したり、英語での実験の説明、資料の提供などを行うことにより、理学・工学で必要とされる英語力の修得を目指します。また、海外留学をしても4年間で卒業できるカリキュラムを用意し、海外経験を活かしたグローバルな視点での研究をサポートします。

理工学高度実践プログラム

「天体観測」「数理生物学」「ロボットコンテスト」「ソーラーカー」「実践研究」「ITアプリケーションコンテスト」といった、実践的なテーマに沿ったプロジェクト型の学習・研究の場を提供していきます。2・3年次といった早い段階から、通常とは別に設置されたカリキュラムの中で学科の枠を超えて専門性の高い高度な学習・研究ができるようサポートします。

理工学部物理・数理学科 松川宏教授が「摩擦の新しい法則」を発見

物理の世界には、「アモントンの法則」という摩擦に関する有名な法則があります。これはレオナルド・ダ・ヴィンチが発見し、その約200年後、フランスの物理学者アモントンによって再発見されたもので、今日では高校の物理の教科書にも必ず登場しています。この法則が絶対的ではないことは知られていましたが、その成り立たない場合において別の新たな法則が成立することを、本学理工学部物理・数理学科の松川宏教授が発見しました。大槻道夫助教(現島根大学 総合理工学部物質科学科 講師)との共同研究によって得られた成果として、すでに日本物理学会第68回年次大会において発表され、2013年4月22日には青山キャンパスにて合同記者会見が行われました。



理工学部物理・数理学科
松川 宏 教授

松川教授・大槻助教の共同研究によって発見された新法則「荷重を大きくすると、摩擦係数は減少する」

今ある法則の限界を明らかにし、さらに新たな法則を見つけようとして、物理の世界は進化しています。摩擦はもっとも身近な物理現象のひとつで、私たちが地面に足を付けて歩くとき、車が路面を走るとき、地震が起きるときや機械が動くときにも、すべて摩擦力が働いています。その摩擦の世界において古くから知られてきた「アモントンの法則」はどこまで成り立つのか、なぜ成り立つのか。私たちの研究はそこから始まりました。

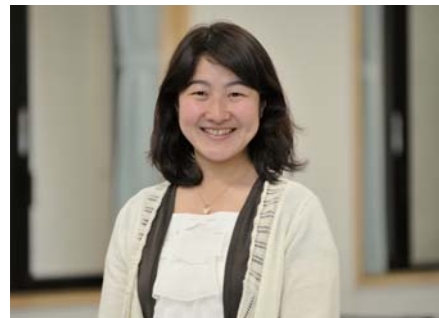
取り組んだのは、固体モデルを使い、外力を与えて物体の動いた距離や速度などを求める数値実験です。床の上の固体を、外力、たとえば棒で押す力で動かす場合、アモントンの法則では床に接した面に働く摩擦力は荷重に比例するので摩擦力を荷重で割った量である摩擦係数は一定です。接触面積にも依らないとされているので、固体の長さを変えたとしても法則は成り立つはずで、ところが、長さの



違う3種類の固体を仮定し数値実験を行った結果、そうではないことがわかりました。長さを長くすると摩擦係数は下がり、荷重を大きくすることで摩擦係数は下がります。結果として、アモントンの法則はある範囲でのみ近似的に成立し、一般には「摩擦係数は荷重の1/3乗に比例して小さくなる」という結果を導き出しました。これらの結果はモデルを用いた理論によっても説明でき、さらにはこのような振る舞いを示す原因も明らかになりました。

“接触面の形状によって、摩擦を制御することができる”という結論は、今後さまざまな業界で活かせることでしょう。実際、この研究発表の後、いくつかの企業からの問い合わせもいただいています。現在、松川研究室の大学院生が実験によって数値実験及び理論で得られた結果の検証を重ねていますので、将来、新技術として社会に貢献できることを期待しています。

※アモントンの法則 「摩擦力は、見かけの接触面積に依存しない。摩擦力は荷重に比例する」



Aogaku Lecture 10

囲碁で養うロジカルシンキング

桑原 陽子

非常勤講師
公益財団法人日本棋院 棋士

堀内 正博

総合文化政策学部 教授
青山スタンダード教育機構 副機構長

白と黒の碁石を使い、盤の上で陣地の広さを競う「囲碁」。シンプルなルールに秘められた奥深さを解説し、実際に対局する囲碁の授業は、多くの大学で注目されており、本学では青山スタンダードのキャリア科目として2012年度から開講しました。

物事を全体的にとらえ判断していく、序盤(最初)、中盤、終局(終わり)への流れの中で、考える力や論理的思考を身につけることを狙いとしています。受講対象となるのは、囲碁をまったく知らない学生たち。はじめは縦横6本ずつの線を引いた6路盤を使い、次に9路盤、授業6コマ目からは本格的な19路盤へと移行しながら徐々に理解を深めていきます。他大学で講師を務め、本講座の見学を訪れることもあるプロの棋士や、授業をサポートするSA(スチューデント・アシスタント)と呼ばれる学生が、碁盤に向かう学生たちに直接アドバイスをすることもあります。

講座は、全15コマ。前期は青山キャンパス、後期は相模原キャンパスで行われます。各50名の定員枠に、2012年度の青山では約200名、2013年度も170名もの学生が受

講を希望してくれました。囲碁を学ぶ意欲を作文に書いてもらい、やむなく定数に絞り込みましたが、どの学生も驚くほどの熱意が込められていました。「囲碁を覚えて海外の人に紹介したい」「論理的思考を身につけて起業したい」「うちに碁盤があるので祖父と一緒に楽しみたい」など、それぞれの思いは、熱心な受講姿勢に十分あらわれています。

本来、囲碁の対局には時間制限がなく、棋会所では2時間3時間続くのもあたりまえ。しかし、授業では90分内でルールと技を解説し、毎回終局に向かわせなければならないため、本講座では、模範の碁を途中まで用意する「決め打ち碁」を取り入れました。学生たちは、6路盤では5手目から、19路盤では70手目や90手目から自由に碁を打っていき、時間内に対局して勝負結果を自分の対局カードに記録します。実は、対局には「負けることを覚える」という狙いもあります。「負け」を経験することで忍耐力を養い、勝負に負けた悔しさをバネにして新たな力に変えていくことを望んでいます。やはり、勝つ喜びもみんなに味わってほしい。学部学科、学年も

さまざま、男子も女子も集う授業ですから、毎回違う相手と対局できるよう工夫しています。

「礼に始まり、礼に終わる」という言葉があるように、初めて対局する相手にも礼儀正しく接し、共に楽しみながら勝負に挑む様子は、見ていて嬉しいものです。攻撃型であったり、几帳面さが出たり、打ち方に個々の性格があらわれるのも、囲碁のおもしろいところ。こうした対局を重ねることで、学生たちのコミュニケーション能力も向上するのではないのでしょうか。技量としては、受講期間内に、25級あたりの初心者から10～13級レベルまで上げることを目標としています。大学生はルールを覚えるのも早く、上達もめざましいのでこれからが楽しみです。教える側としても、もっともっと覚えてほしいという思いから、毎回紹介する囲碁用語も増えてきました。

囲碁は山あり谷あり。最初は全体を見渡して、自分の流れを作って詰めていく。人生と似ています。就職活動でも、社会に出てからも、囲碁で学んだことが行動に活かされれば、そして少しでも長く囲碁に親しんでもらえれば、こんなに嬉しいことはありません。

Information

Academics

2013年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
仙波 憲一
■専門分野：理論経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学
■任 期：2011年12月～2015年12月



副学長
林 洋一
■専門分野：パワーエレクトロニクス
■任 期：2011年12月～2013年12月



副学長
長谷川 信
■専門分野：日本経営史
■任 期：2011年12月～2013年12月



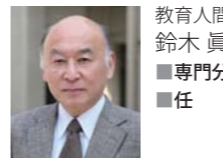
副学長
平澤 典男
■専門分野：公共経済学
■任 期：2011年12月～2013年12月



文学部長・文学研究科長
西澤 文昭
■専門分野：フランス中世文学、語学
■任 期：2012年4月～2014年3月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
杉浦 勢之
■専門分野：社会経済史、経済文明史
■任 期：2012年4月～2014年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
鈴木 眞理
■専門分野：社会教育学、生涯学習論
■任 期：2013年4月～2015年3月



理工学部長・理工学研究科長
橋本 修
■専門分野：電磁波工学
■任 期：2012年4月～2014年3月



経済学部長・経済学研究科長
宮原 勝一
■専門分野：理論経済学、応用計量経済学
■任 期：2012年4月～2014年3月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
稲積 宏誠
■専門分野：情報理論、人工知能、機械学習
■任 期：2012年4月～2014年3月



法学部長・法学研究科長
菊池 純一
■専門分野：知的財産法、技術追跡評価、知財クリニック
■任 期：2012年4月～2014年3月



国際マネジメント研究科長
高橋 文郎
■専門分野：企業財務論、証券投資論
■任 期：2013年4月～2015年3月



経営学部長・経営学研究科長
田中 正郎
■専門分野：流通マーケティング
■任 期：2013年4月～2015年3月



法務研究科長
山崎 敏彦
■専門分野：民法法学
■任 期：2012年4月～2014年3月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
押村 高
■専門分野：政治学、国際関係論
■任 期：2012年4月～2014年3月



会計プロフェッション研究科長
小倉 昇
■専門分野：管理会計、環境会計、企業評価
■任 期：2013年4月～2015年3月

For Parents

2013年度 ペアレンツウィークエンドのお知らせ

ペアレンツウィークエンドは大学後援会事業の一環として行われ、首都圏では青山・相模原の各キャンパスで主に2~3年生の保護者を対象に、地方では各主要都市で全学生の保護者を対象に開催されます。大学の教育方針、教育状況、進路就職・奨学金・留学等をはじめ、個人ごとの学業成績・学生生活全般にかかわるご相談や、大学運営等に関するご意見をお伺いし、学生一人ひとりの成長を支援することを目的としております。

今年の開催日程は右表のとおりです。詳細は既にお届けしております「ペアレンツウィークエンド資料2013」をご参照ください。より多くの保護者の皆さまの参加をお待ちしております。

問い合わせ先：庶務部庶務課
ペアレンツウィークエンド担当 TEL. 03-3409-8568
<http://www.aoyama.ac.jp/life/parents/parentsweekend/>

キャンパス開催(主に2~3年生対象)

対象学部	開催日	キャンパス
経済学部	6月8日(土)	青山
国際政治経済学部		青山
文学部	6月15日(土)	青山
教育人間科学部		青山
経営学部	6月22日(土)	青山
理工学部		相模原
法学部	6月29日(土)	青山
総合文化政策学部		青山
社会情報学部		相模原



地区開催

地区	開催日	開催場所
群馬	7月7日(日)	ホテルメトロポリタン高崎
富山	7月7日(日)	ANAクラウンプラザホテル富山
熊本	7月7日(日)	ホテルニューオータニ熊本
北海道	7月13日(土)	ニューオータニイン札幌
栃木	7月14日(日)	宇都宮グランドホテル
山口	7月20日(土)	山口グランドホテル
徳島	7月20日(土)	ホテルクレメント徳島
宮崎	7月21日(日)	ホテルスカイタワー
秋田	7月28日(日)	秋田キャッスルホテル
福岡	8月4日(日)	ホテルニューオータニ博多
愛知	8月4日(日)	キャッスルプラザ
広島	8月17日(土)	ホテルグランヴィア広島
京都	8月17日(土)	リーガロイヤルホテル京都
兵庫	8月18日(日)	ANAクラウンプラザホテル神戸
静岡	8月18日(日)	ホテルアソシア静岡
山梨	8月24日(土)	常盤ホテル
福島	8月25日(日)	福島ビューホテル
宮城	8月25日(日)	仙台国際ホテル

2013年度 入学式

2013年4月1日(月)、青山学院記念館において2013年度入学式が挙行政され、4329名(学部3841名、大学院・専門職大学院488名)の新入生が入学しました。



写真提供：校友 浅井 和巳氏

Report

2012年度 学位授与式(卒業式)

2013年3月23日(土)、青山学院記念館において大学学位授与式が挙行政され、3989名の卒業生に学士号が授与されました。式に



写真提供：校友 浅井 和巳氏

先立ち、ガウチャー記念礼拝堂では卒業礼拝が行われ、伊藤悟大学宗教部長が「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」と題した説教で、卒業生へメッセージを贈りました。

大学院学位授与式は青山学院講堂にて挙行政され、博士前期課程および修士課程の修了生315名に修士学位、専門職学位課程の修了生160名に専門職学位、そして博士後期課程の修了生および博士學位申請者14名に博士學位が授与されました。

Campus Life

クラブ・サークルインフォメーション

学生団体の活動予定は、今後変更になる可能性があります。[問い合わせ先 学生生活部 TEL.03-3409-7835]

主要活動予定(2013年6月~7月)

- 居合道部●第45回東日本学生居合道新人戦(6月)
- 剣道部●第47回全日本女子学生剣道選手権大会(7月)
- 硬式庭球部男子●平成25年度関東学生テニス選手権大会(7月)
- 硬式庭球部女子●平成25年度関東学生テニス選手権大会(7月)
- サッカー部●アミノバイタルカップ(6月)
- 自動車部●全関東学生ダートトライアル選手権大会(6月)
- ソフトテニス部男子●第63回東日本大学対抗ソフトテニス競技大会(6月・7月)
- 第68回東日本学生ソフトテニス選手権大会(6月・7月)
- 第56回東日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会(6月・7月)
- 卓球部男子●関東学生選手権(7月)
- チアリーディング部●第15回関東選手権大会(6月)
- バスケットボール部女子●第3回関東大学女子バスケットボール新人戦(6月)
- 馬術部●第48回関東学生賞典障害飛越競技大会(6月)
- 第48回関東学生賞典馬術競技大会(6月)
- パワーリフティング部●第95回関東学生パワーリフティング選手権大会(6月)
- 第40回全日本学生パワーリフティング選手権大会(6月)

- ボクシング部●第48回関東大学ボクシングトーナメント戦(6・7月)
- 洋弓部●関東学連フィールド個人選手権大会(6月)
- 陸上競技部(長距離ブロック)●世田谷陸上競技会(6月)
- 日本学生陸上競技個人選手権大会(6月)
- 秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会関東学生陸上競技連盟推薦校選考会(6月)
- 世田谷陸上競技会(7月)
- レスリング部●平成25年度明治杯全日本選抜レスリング選手権大会(6月)
- 東日本学生春季新人選手権(6月)
- 競技ダンス部●第92回東部日本学生競技ダンス選手権大会(6月・7月)
- 第15回単月杯争奪学生競技ダンス選手権大会(6月・7月)
- 第51回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会(6月・7月)
- E.S.S.部●大木杯スピーチコンテスト(6月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ部●トライアングルコンサート(7月)

Admission

2013年度 進学相談会 開催日程

2013年度 進学相談会

青山学院大学では、全国各地で開催される進学相談会(他大学との連合参加)に参加しています。進学相談会では、受験生のみなさんからの青山学院大学に対するさまざまな質問や相談に本学担当者がface to faceでお答えします。

開催日	開催地	会場
北海道		
6/8(土)	札幌	アスティ45
8/23(金)	札幌	札幌パークホテル
東北		
6/19(水)	秋田	秋田エリアなかいち
6/20(木)	岩手	ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING
6/23(日)	宮城	AER 21F TKPガーデンシティ仙台
7/5(金)	福島	郡山ビューホテルアネックス
7/6(土)	福島	エスパル福島
関東		
6/4(火)	栃木	マロニエプラザ
6/5(水)	群馬	マロニエプラザ
6/6(木)	群馬	エテルナ高崎
6/6(木)	埼玉	川越プリンスホテル
6/9(日)	千葉	京葉銀行文化プラザ
6/12(水)	埼玉	大宮ソニックシティ
6/15(土)	東京	エステック情報ビル
6/29(土)	東京	東京ビッグサイト
6/30(日)	東京	東京ビッグサイト
7/13(土)	東京	東京ビッグサイト
7/15(月・祝)	東京	サンシャインシティ 文化会館
7/28(日)	神奈川	パシフィコ横浜
9/23(月・祝)	神奈川	パシフィコ横浜
11/中旬予定	東京	講談社本社
2014年3/15(土)予定	神奈川	横浜新都市ビル

Admission

2013年度 理系女子対象イベント・青学フェア 開催日程

理系女子対象イベント Rikejo♡青学(事前申込制)

充実した教育・研究環境のキャンパスで青学Rikejoライブを体験してみませんか?先輩Rikejoと直接、対話できるカフェコーナーもあります。

日時:6月15日(土)14:00~
開催場所:相模原キャンパス
対象学部:理工学部・社会情報学部
対象:理系分野に興味のある女子中高生と保護者
定員:300名(要事前申込、先着順)
※申込方法はウェブサイトに掲載しています。定員になり次第締め切りとなります。



Rikejo♡青学(相模原キャンパス)



青学フェア(埼玉会場)

問い合わせ先:入学広報部
TEL.03-3409-8627
<http://www.aoyama.ac.jp/admission/undergraduate/>
※進学相談会の日程・会場および各イベントの企画内容は変更となる可能性があります。詳細は本学ウェブサイトをご確認ください。

開催日	開催地	会場
関東		
2014年3/21(金)予定	埼玉	大宮ソニックシティ
2014年3/25(火)予定	東京	東京国際フォーラム
中部		
6/2(日)	山梨	アイメッセ山梨
6/8(土)	愛知	名古屋デザインホール
6/11(火)	静岡	ソインメッセ静岡
6/11(火)	長野	ホテルブエナビスタ
6/12(水)	長野	ビッグハット
7/10(水)	新潟	朱鷺メッセ
7/20(土)	愛知	ポートメッセなごや
8/3(土)	愛知	名古屋国際会議場
9/12(木)	石川	金沢駅もてなしドーム
9/13(金)	富山	ANAクラウンプラザホテル富山
9/29(日)	静岡	パルシェ
11/9(土)	静岡	ソインメッセ静岡
近畿		
6/15(土)	大阪	梅田クリスタルホール
7/6(土)	兵庫	三宮研修センター
7/7(日)	大阪	上智大学(大阪サテライトキャンパス)
中国・四国		
6/3(月)	愛媛	愛媛県民文化会館(ひめぎんホール)
6/4(火)	香川	JRホテルクレメント高松
6/16(日)	広島	基町クレド
九州・沖縄		
6/1(土)	福岡	エルガーラ
7/6(土)	福岡	エルガーラ
7/11(木)	沖縄	パンフィックホテル沖縄
7/12(金)	沖縄	パンフィックホテル沖縄
9/25(水)	宮崎	MRT micc
10/19(土)	福岡	マリノメッセ福岡

青学フェア(予約不要・入退場自由)

千葉会場
日時:6月1日(土)12:00~17:00(予定)
開催場所:千葉商工会議所ホール(JR千葉駅・徒歩10分)
●実施学部・学科
文学部比較芸術学科、経済学部、経営学部、国際政治経済学部、総合文化政策学部、理工学部(※)、社会情報学部
●予定している主な企画
大学概要紹介、学部・学科紹介、個別進学相談、資料閲覧コーナー、アンケート回答者への記念品進呈
※理工学部は個別進学相談のみ実施

埼玉会場
日時:6月22日(土)12:00~17:00(予定)
6月23日(日)11:00~16:00(予定)
開催場所:TOIRO(さいたまスーパーアリーナ内・JRさいたま新都心駅・徒歩1分)
●実施学部・学科
6/22(土) 文学部、法学部、国際政治経済学部、理工学部(※)
6/23(日) 教育人間科学部、経済学部、経営学部、総合文化政策学部、理工学部(※)、社会情報学部
●予定している主な企画
学部・学科紹介、模擬授業、個別進学相談、学生との懇談コーナー、資料閲覧コーナー、アンケート回答者への記念品進呈
※理工学部は個別進学相談のみ実施

茨城会場
日時:9月21日(土)12:00~17:00(予定)
開催場所:つくば国際会議場(つくばエクスプレスつくば駅・徒歩10分)
●実施学部・学科
文学部英米文学科・比較芸術学科、教育人間科学部教育学科、経済学部、経営学部、国際政治経済学部、総合文化政策学部、理工学部、社会情報学部
●予定している主な企画
大学概要紹介、学部・学科紹介、個別進学相談、資料閲覧コーナー、アンケート回答者への記念品進呈

For
Parents

「青山学院 エバーグリーン募金」へのご協力をお願い 『地の塩、世の光』たる人物の輩出のためにご支援ください

青山学院では、青山学院エバーグリーン募金として「青山学院維持協力会募金」と「青山学院奨学金募金」の2つの募金活動を行っております。青山学院奨学金募金は、勉学と課外活動に燃える在学学生を経済支援するための募金であり、①冠奨学金と②エバーグリーン奨学金の2つから成ります。①は寄付者の意向に添った、お名前を冠し奨学金とするもの、②は匿名または任意の寄付をまとめて給付するものです。昨年度は皆様方の尊いご寄付により①②の奨学金を計264名の本学学生に給付できました。

ここでは①冠奨学金寄付者から奨学生に向けたメッセージを一部ご紹介します。

宮崎輝・淑子奨学金 まことにささやかですが、お役にたてれば嬉しいです。亡き両親の名前をつけました。長女の私も50年前の英米文学科の卒業生です。独特の温かさを持った大学は年月が過ぎる程なつかしく思い出されます。若さと頑張りで卒業してください。

寺村真佐子奨学金 どんな時にも神の愛への信頼を失うことなく、希望をもってご自分の人生をしっかり歩んでください。私の好きな「何事にも時がある」というコヘルトの言葉3章1節～8節を贈ります。

嶋田奨学金 経済的に困難な中で、学業とアルバイトを両立させることは大変だと思いますが、志を高く持ち、試練を乗り越え、学業を全うしてください。日々の歩みの上に主の恵みと導きが豊かに臨みますように。

佐々木グローバル奨学金 若さを武器に、何にでも興味を持ち、挑戦していただきたいと思います。近年は内向き志向が強く、留学を志す学生が減少していると聞き、残念でなりません。そこで留学を希望する意欲ある学生を支援しようと、ささやかではありますが奨学金を申し出ました。

アイビックス奨学金 従業員全員が一生懸命汗水たらして得た利益の中から、奨学生の皆さんのお役に立てればと、この奨学金を創設しました。学生時代はアツと言う間に過ぎてしまいますが、与えられた極めて重要な時間です。この間に何をしたかが後々の人生にも大きな影響を及ぼすはずです。

青山学院宗教センター奨学金 宗教センターの職員・元職員の有志の寄付により誕生しました。大学生活において自身の信仰と学びを深めようと努力するあなたの背中を、すぐ近くで見守る人がいることを、どうか忘れないでください。

みかつき会奨学金 会社経営者が集う60年以上にわたって続いてきた会です。皆さんの先達が本校で皆さんと同じように学び、会社経営者となって世の中に貢献しています。大志をもって勉学に励み、いつの日か企業家になって、当会に入会していただけるよう心より応援いたします。

資料をお送りいたします。募金事務局へご連絡ください。

募金事務局(間島記念館2階)

TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890 MAIL bokin@aoyamagakuin.jp

For
Parents

「スポーツ振興資金」が強化指定の各部に授与されました

5月10日(金)学長室において、仙波学長から体育会強化指定部の陸上競技部、バスケットボール部(男子)、硬式野球部、バレーボール部(女子)、ラグビー部に対して、スポーツ振興資金が授与されました。

青学スポーツ振興のための積極的支援を行うことを目的に、去る2012年12月1日から2013年3月31日までの4カ月間にわたり「スポーツ振興資金(第1期)」募集が行われました。

「ともに学び、探究し、世界を切り拓く」を方針に掲げる本学では、その実現にむけた一環として、また「青学スポーツ」の名を全国レベルに広めると同時に校友の輪が

広がることも期待して行われた募集に対し、たくさんの方々はその趣旨にご賛同くださり、多くのご寄付をいただきました。今回頂いた寄付金は、「強化指定部への活動資金」として使用することを方針として強化指定各部に配分が行われたものです。支援者の思いを授与された各部の代表はお礼の言葉とともに、それぞれの目標に向かって新たな決意を力強く述べました。今後も引き続き、「青学スポーツ」に対してご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Club & Circle 17 新聞編集委員会

取材・執筆を通して文章力やコミュニケーション能力を磨いています。

2月と8月を除く毎月15日に、大学公認の「青山学院大学新聞」を発行するのが主な活動です。学内で行われるさまざまなイベントの様子や、青学生の学内外での活躍、青学スポーツの熱戦の模様などを取材し記事を執筆しています。そのほか、慶應義塾大学・一橋大学・上智大学・法政大学と関東学生新聞連盟を結成し、月に1回各大学新聞を評論し合う場を設けています。

文章力が向上するのはもちろん、取材を通してコミュニケーション能力が育まれるのが新聞編集委員会のメリットです。私も最初は初対面の方と話すことに物怖じしていましたが、今では誰とでも気軽に話ができるようになりました。また、学生スポーツで活躍する選手の勇姿を間近で見たりインタビューできるのは、新聞編集委員会だけの特権です。特に箱根駅伝の取材では目の前を疾走する選手の姿を見てとても興奮しました。

「青山学院大学新聞」は、学内のさまざまな場所に設置しています。定期購読も受け付けていますので、ぜひ一度、お手にとってご覧ください。(委員長:法学部法学科3年 池田 和樹)



AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- AGUニュースのバックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
 - AGUニュースを確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。
- 事務取扱窓口 青山キャンパス→スチューデントセンター・学生生活部
相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活部



発行元: 青山学院大学 入学広報部
TEL.03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2013青山学院大学

●2013年5月29日発行●